

令和5年度とくしまエシカル消費推進会議 概要

- ・日時：令和6年3月18日（月）午後1時30分から午後2時30分まで
- ・開催方法：Web会議
- ・概要：
 - （1）とくしまエシカル消費推進会議の概要について
徳島県から説明
 - （2）消費者庁新未来創造戦略本部のエシカル消費の取組について
消費者庁新未来創造戦略本部から説明
 - （3）徳島県のエシカル消費の取組について
徳島県から説明
 - （4）会員による取組事例報告及び意見交換
会員による事例報告は次のとおり。

○喜多機械産業株式会社

弊社の独自の取組として、2018年からエシカル消費リレーというものを行っている。内容は、弊社の社内報で、ある社員が自分が実施しているエシカル消費行動を紹介し、次の社員をランダムに指名し、指名された社員は次の社内報で自分のエシカル消費行動を紹介するというもの。リレー形式で、エシカル消費行動をつないでいくことで、他の人のエシカル消費行動を知ることができる上に、次は自分が当たるかもしれないということで、日頃からエシカル消費行動に興味を持つようになることを願い、取組を続けている。

それに加えて、去年は弊社社長の呼びかけでエシカルコンシェルジュになりたい人を募集。自ら志願することで、意識が高い人がエシカル消費について勉強し、その後押しを企業がすることで、エシカルへの関心や取組が個人だけでなく、会社全体、家族、取引先様、また社会全体へと広がると信じて、取り組んでいる。

また、本会議の会員でもあられる(有)ハイプラや、エシカルへの取組が積極的な県立高校に協賛していただき、弊社の展示会でSDGsブースというものを設けて、来場いただいたお客様に、弊社や各学校でのエシカルへの取組を具体的に紹介させていただいた。同日会場内にて、食品ロスの啓発ポスターなども掲示し、SNSでもそういった内容や様子を発信し、啓発活動を行った。

○鳴門教育大学

本学は学生の人数が少ない大学だが、なるべく多くの人数が受ける授業でエシカル消費

のことを紹介するといったことを年々取り組んでいる。また、今年度からの新しい取組として、新入生に大塚美術館に行っていたいただき、大塚美術館の中でいろんな取組を推進してもらうための提案を行うといった事業を始めた。内容は、防災の強化や多様性への理解を促すこと、持続可能な消費の実践をもっと色んなところで取り入れてほしいといったことを、学生たちがいくつかの班に分かれて取組を提案して、大塚美術館にそれを取り入れていただくというもの。カーボンニュートラルのために、再生可能エネルギーを取り入れることに取り組んでいるところだが、太陽光パネルは 1%ぐらいしか再生可能エネルギーが使えていないということなので、これをどのように増やしていくか、また DX 化が進んで電気の使用量が増えている中で、どのように再生エネルギーで賄えるようにしていくかということが課題と考えている。

○株式会社キョーエイ

弊社のすきとく市部では、県内の農産物を地産地消で消費するというでスタートして、今では徳島の商品を県外でもということで、地産他消の取組を推進している。他にも、数年前からフードバンクの取組を行っており、現在は店舗でフードバンクポストを展開。お客様にも認知され、最近ではお客様が店舗に持って来ていただき、それをフードバンクの方に提供させていただくという商品が増えてきたので、地域の方もフードバンクとか SDGs というものにだんだん興味を持たれてきているのかなと実感している。

○におメンマ

今年の 1 月 28 日にエシカルマルシェに参加させていただいてから、本会議に入会させていただいた。名前のとおりメンマを製造・販売しているが、阿南市の方では、放置竹林が地域課題となっており、その地域課題を解決したいということでメンマの製造を始めた。メンマの製造自体がエシカル消費につながる部分かなと思うが、それ以外に、私が現在住んでいる羽ノ浦町でごち倉庫という団体を作り、フードパントリーのような取組をしたり、食品だけでなく衣服、制服の回収をして、必要としている人に配るといった取組を行っている。

また、第 4 回エシカルアワードを受賞された(有)ウト・ワークの木元さん等と一緒に、阿南シビックプライドという団体を立ち上げ、毎月第一水曜日に阿南市役所でマルシェを開催しているので、まともエシカルマルシェを開催するときは良かったら共催していただけたらなと思う。

皆様のお話を聞かせていただきながら、エシカル消費って何だろうなと考えていたが、やはり平和で幸せな環境でなければ、そういう消費には向かわないと感じていて、そこが大事だと思う。また、人々の意識が高くなければ、エシカル消費には繋がっていかないと思うので、地域の人たちに、そういう促しをしていかなければいけないなと感じた。

○株式会社アゲイン

仕事としては、エシカルに関係するところで、着物をリメイクしウェディングドレスやパーティードレス等に作り替えている。現在、職人の高齢化が進み高度な技術を持っている方もだんだん仕事ができなくなってきたが、日本の着物の技術というのは、染色にしても刺繍にしても

素晴らしいものがある。例えば、他の業者さんと一緒に組んで、着物リメイクの新しい作品を仕上げ、海外に展開できたらいいなという夢を持っているので、もし協力いただける業者さんがいたらご指導いただけたら嬉しいし、アイデアをいただけたらなと考えている。

○生活協同組合とくしま生協

取組としては、食品ロスの問題に対応し、県も推奨しているてまえどりのシールを貼って、賞味期限の短い商品から購入していただくことで、できるだけ食品ロスを減らすための取組や、昨年、フードドライブということで、組合員さんのご自宅にある不要になった商品を、捨てるのではなく持ってきていただいて、フードバンクの方に提供している。

また、組合員から、生産者と交流したいといった要望があり、例えば、収穫体験のような生産者と消費者をつなぐ取組を、ぜひ進めていきたいと考えている。

○株式会社阿波銀行

弊行では、昨年 10 月に四国の地銀、四国アライアンスの百十四銀行さん、伊予銀行さん、四国銀行さんと一緒にフードドライブを実施した。各地域のフードバンクに食品を提供したり、職員からペットボトルキャップを集めて、県北では(有)ハイプラに、県南では(株)日徳に持って行き、リサイクルを行った。

また、各支店が行っている取組を行内のチャットで情報発信して、それを他の支店や本部が参考にして実践をしている。

○一般社団法人徳島新聞社

今回、オブザーバーという立場で参加させていただいたが、皆様、様々な活動をされているということで非常に勉強になった。エシカル消費は、地産地消も含めて地域の課題解決という部分があると思うが、その点で言えば、におメンマの仁尾さんがおっしゃったように、放置竹林の問題が一つの課題になっていて、それを発想の転換で商品化して販売しているということで、非常に素晴らしいと思った。地域の課題というのは、それぞれのエリアであると思うが、それをどのように解決していくか考え、新しい発想で取り組んでいく必要があるのではないかと考えた。

○講評（アドバイザー：（一社）日本エシカル推進協議会 中原名誉会長）

皆様の取組状況を教えていただき、さすが徳島県だなという感じがしたが、1 つ申し上げたいのは、エシカル宣言が始まって 5 年が経ち、次はどのようにステップアップするのかということが求められる。宣言した当時に考えついた課題、解決しなきゃいけない課題が、5 年経ってどう変わったか、そして、次の 5 年に向けてどうしたらいいかを考えてもらいたい。

エシカル宣言を始めた頃には、あまり SDGs なんと言っていなかったが、今はほとんどのところで SDGs が言われている。その中でも、特に重要なのは、持続可能な消費と生産、サステナブルコンサンプションと企業にとってのサステナブルプロダクション。その時に大事なものは、正しい

情報を提供して、消費者が迷わないようにものづくりを進めているか。その時に市場での信頼性が BtoB でも BtoC でも、この商品だったらより良い社会を作るかもしれないと思わせることが大事。だからそちらの方向にステップアップをぜひ皆様にやっていただければと思う。ファッションにしても、すべてそういうものが基準になっているはずですから。ぜひ、皆様のますますの発展と活動を期待しております。